

甫嶺地区の復興まちづくりと被災跡地利用について

1. これまでと現在の取組

市・県では、甫嶺地区の早期復興に向けて各種復旧・復興事業に取り組んでいます。

■甫嶺地区における復旧・復興事業（位置等は「被災跡地土地利用実現化方策」参照）

区分	事業名	総事業費 (千円)	内容	図上 番号	完了年次 (予定)	事業 主体
防潮堤	海岸保全施設復旧・整備事業(下甫嶺地先海岸)	2,784,000	被災した防潮堤の整備を進めています。(T.P.+11.5m)	①	平成27年度	岩手県
漁港の 復旧	漁港施設機能強化事業等(鬼沢漁港)	70,093	地盤沈下した鬼沢漁港用地の嵩上げ等を進めました。嵩上げ面積4,000㎡	②	平成26年度	水産課
防災	消防屯所新築事業	25,435	被災した消防団の屯所(11分団1部)の整備を進めています。木造2階建、建築面積84㎡	③	平成27年度	消防署
	甫嶺地域防災コミュニティセンター整備事業	109,476	防災拠点となる避難所機能を備えた地域防災コミュニティセンターの整備を進めています。木造平屋建、建築面積258㎡	④	平成27年度	農林課

※T.P.(東京湾平均海面)とは全国の標高の基準となる海水面の高さのこと。海岸施設の高さは基準海面からの高さで表されます。

2. 被災跡地の買取り

市では、防災集団移転促進事業により一定の要件を満たす被災跡地の買取りを進めています。甫嶺地区における被災跡地の買取りは、次のように見込まれます。

■被災跡地の買取り（見込み）

区分	甫嶺地区
被災跡地数	17筆
被災跡地面積	7,270㎡

3. 被災跡地（買取地）利用の取組

甫嶺地区の被災跡地(買取地)の利用にあたっては、地域と市が協働で次のように取り組んでいきます。

①地域再生を支える仕組みづくり

地域の要望が強い植樹や耕作等の取組を支える組織・仕組みづくり等について、地域と検討を進め、支援していきます。

②越喜来小学校の有効活用

移転後の越喜来小学校(校舎・グラウンド・体育館)について、その利用方法を地域と検討していきます。

③安全・安心な暮らしのための基盤整備

災害時の避難ルート確保や孤立解消に向けた道路整備について検討し、関係機関と協議していきます。

④買取地を活用するためのルールづくり

蕎麦の栽培やビオトープづくり等の用地は、地域の要望に応じて積極的かつ柔軟に市有地を活用できるよう、その利用に関するルールづくりを進めます。

また、公共空間の管理を積極的に進めていくという地域の意向を踏まえ、円滑な活動を支える仕組みづくりを進めます。

■甫嶺地区における検討中の取組（位置等は「被災跡地土地利用実現化方策」参照）

区分	取組項目	取組の概要	図上 番号
復旧・復興事業として 〔事業主体市〕	市道の 신설	浸水想定区域を通らずに集落間を行き来できる、山側への市道の 신설について検討します。	Ⓐ
	住民協働による拠点の検討・運営	移転により使用されなくなる越喜来小学校の校舎等の利活用について検討します。	Ⓑ
	農業的土地利用への誘導(先行誘導地)	農業のための土地利用形態へ誘導していくことを検討します。	Ⓒ
	避難道の整備	鬼沢漁港と主要地方道を結ぶ避難路の 신설について検討します。	Ⓓ
住民主体の取組として 〔事業主体地域〕	地元住民・三陸鉄道との協働による植樹帯の整備	甫嶺駅前へ植樹帯の整備を進めます。	Ⓔ
	蕎麦栽培	甫嶺駅の海側において、地域による蕎麦の共同栽培を行います。	Ⓕ
	ビオトープ	甫嶺駅の海側一帯を甫嶺川等の自然資源を活用した体験ができる場所とします。	Ⓖ
	見晴台	防潮堤背後の矢作川河口付近に見晴台を設置します。	Ⓖ
	シーカヤック活動拠点	鬼沢漁港の南側は自然資源を活用したシーカヤック体験を行う場所とします。	Ⓖ